

## 2019年度 「応用演習」 ミニシラバス (理解学科)

担当者名	生田 祐子
授業のテーマ	Language Education for Global Peace: 国際理解と平和を考える言語教育とは？
授業の内容 (200字程度)	ユネスコ憲章の前文に「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりで築かなければならない」とあり、そのために欧州では異なる民族が平和に共存できる社会を築くために母語以外の言葉を学ぶことを必須とし、言語教育と国際理解教育との連携を大切にしています。この授業では、実践例として英語で模擬国連を体験し平和構築について自ら考え、同時に英語発信力、スピーチ力を強化します。希望者は6月に京都で行われる模擬国連にも参加が可能です。
サブテキストなど	SDGs や国際情勢に関する英語教材と英語スピーチ作成マニュアル等を配布します。
お勧め対象	教育分野（英語・日本語教師）や国連などの国際機関（特に国際教育協力の分野）に関心があり、英語を話すことが大好きで、とにかく英語を使う環境が欲しいと願う学生。ニューヨーク国連研修参加希望者にも良い準備になると思います。

担当者名	塩沢 泰子
授業のテーマ	洋画やテレビドラマを通して生きた英語表現を学ぼう！
授業の内容 (200字程度)	LGにある洋画やテレビドラマの興味ある場面の役割練習を通し、日常会話で使える表現を身につけます。受講生自身が自分の好きな映画の一場面を選び、台詞を聞き取って（読み取って？）教材を準備します。背景の文化や習慣、価値観などについてもディスカッションします。英語力をつけるにはまず真似ること！動画で意味と発音と用法を同時にマスターして使える語彙を増やしましょう。
サブテキストなど	特になし
お勧め対象	映画好きの人。ドラマが好きの人。日常会話に興味のある人。

担当者名	林 薫
授業のテーマ	国際情勢や国際関係を英語で学ぶ。
授業の内容 (200字程度)	難民、テロ、過激派、環境と持続性など国際関係は大きな問題を抱えながら急速に変化しています。世界の人々と、これらの問題について英語で情報を得て、英語で話し合うことができることは「世界市民」としてきわめて重要なことです。授業では、英語文献を読むことにより1年生の国際理解論で学んだ国際関係のより深い理解するとともに、普通に使われている英語でディスカッションができること、その際のマナー（political correctness: 言っていないこといけないこと）を身につけることなども目指します。
サブテキストなど	教材は Economist、Foreign Policy, Foreign Affairs などの世界中で読まれているジャーナルや雑誌に掲載された論文やインターネットに掲載されたニュース記事が中心ですが、テーマは学生が主体的に選びます。2016年度は「幸福とは何か」をテーマにしました。BBCのニュースなども活用します。
お勧め対象	英語で仕事、ボランティア、その他社会的活動にかかわることを目指している学生。広く国際情勢、国際関係に興味を持っている学生。

担当者名	丸山鋼二（中国研究、中国政治外交史）
授業のテーマ	未定
授業の内容 （200字程度）	
サブテキストなど	
お勧め対象	

担当者名	山田 修嗣
授業のテーマ	「当たり前」とは何か？ ——世の中の「当たり前」を考え、語りあい、理解する——
授業の内容 （200字程度）	人はなぜ、「そんなの当たり前」と言えるのでしょうか。この現象を理解して、社会への関心を深めるため、参加者どうしで学びあいます。「当たり前」を把握するには、さまざまな見解を提示し、検討する必要があります。だから、1人では難しい作業で、演習のテーマにむいています。発見して、整理する（言い換える）作業を楽しみましょう。参加者と相談して進める演習にします。あれこれ気になることを提案して下さい。
サブテキストなど	講義時に説明・紹介します
お勧め対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのできごとや社会に「なぜ？」と疑問をもつ人</li> <li>・他者との討論を通じた「わかる！」を楽しみたい人</li> <li>・概念、理念、理論といった言葉に魅力を感じる人</li> <li>・文献やデータを集め、読み進めることに興味をもつ人</li> </ul>

担当者名	渡邊 暁子
授業のテーマ	SDGs の理解を深める開発教育プログラムの実践と教材作成
授業の内容 （200字程度）	<p>持続可能な開発目標（SDGs）は世界共通のゴールとして、2030年までに達成が求められています。それには、NGOや企業だけでなく、市民一人ひとりが自分の問題として捉え、行動していくことが必要です。</p> <p>本演習の前半では、履修者複数名がファシリテーターの役目を務めながら既存の開発教育教材をワークショップの形式で実践していきます。後半では、履修者はいくつかのグループに分かれ、開発教育、市民教育、人権教育としてSDGsの理解を深めるためのオリジナルな教材の作成を試みます。</p> <p>これらの作業を通じて、履修者はファシリテートする力だけでなく、学習者として資料収集、検討、分析、考察、語る力を培っていきます。</p>
サブテキストなど	授業の中で指示します。
お勧め対象	国際協力、地域研究、社会の仕組みなどに関心のある学生 周囲と協力して物事を進めていく意思のある学生

担当者名	B（異文化理解）
授業のテーマ	異文化理解関連のテーマを扱います。
授業の内容 （200字程度）	
サブテキストなど	
お勧め対象	